



「本六ふれあい市」開催  
桐生市本町六丁目商店街(振)

桐生市本町六丁目商店街振興組合(多田和生理事長)は、5月7日、桐生市・プラスアンカーにおいて、「本六ふれあい市」を開催した。

当イベントは、5・6・10月の第1土曜日と11月3日に、商店街を会場に開催されており、平成7年の開催以来、今年で23年目を迎える。

昨年まで歩道で展開していたフリーマーケットを、今年から力フェプラスアンカー」前の広場に集約。

フリーマーケットの他、飲食店など約60店が出店し、1,500人以上の来場者で賑わった。



多くの来場者で賑わう会場

酸素欠乏危険作業

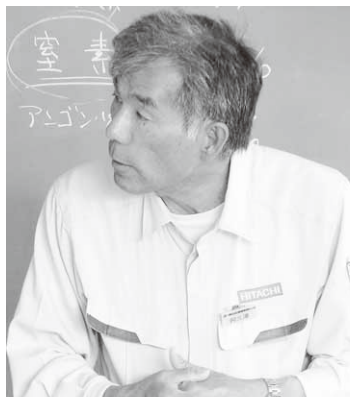
特別講習会を開催

桐生管工事(協)

桐生管工事協同組合(星野正夫理事長)は、5月12日、桐生市・組合会議室において、第二種酸素欠乏危険作業に係る特別講習会を開催した。講師は、株式会社日立建機教習センタ群馬教習所所長・阿久澤公夫氏。

阿久澤氏は、作業現場における酸素欠乏の危険性・発生原因・症状について説明。また、作業現場

において必要となる、酸素濃度計測器・空気マスクの使用方法についても解説した。



阿久澤公夫氏

「創客」のポイントを学ぶ

商店街(振)高崎中部名店街

商店街振興組合高崎中部名店街(西澤彰理事長)は、5月25日、高崎市・組合事務所において、「商店街を、市民のサードプレイスに！」新たなエリア価値創造に向けて「」をテーマに講習会を開催した。講師は、まちとひと感動のデザイン研究所代表・藤田とし子氏。

藤田氏は、消費者のライフスタイルの変化や、人口減少等を背景に小売業全体の販売額が減少を続けている現状について説明。次い

で、「このような時代の中で、商店街に求められるのは、居心地の良い空間を創出することであり、「ここにしかない体験価値」を生み出し、リピーターによる安定した消費を獲得していくことが重要である」と解説した。

最後に、先進的な取り組みを行う全国の商店街の事例を紹介するとともに、「大勢に向けた集客事業よりも、地域の住民が誇りと愛着を感じられるような『創客』に向けた取り組みを行ってもらいたい」と締めくくった。

また、講師は高崎の街を実際に歩いた上で、品揃えの充実した店舗が多い等の長所を挙げながら、各事業のターゲットを明確にすること等を提案し、同商店街が目指す『記憶に残る街』の実現に向けたアドバイスを行った。



藤田とし子氏